



—— 没後 50 周年・自邸公開 ——

The houses designed by Mamoru Yamada - 50th anniversary of the architect's death Opening his own Residence -

「建築家・山田守の住宅」展

4/12 [水] → 4/23 [日]

2017 * 4.17・18 閉邸

山田守自邸：港区南青山5-11-20(地下鉄表参道駅徒歩5分) 水～金 13:00～18:00(最終入場17:30) / 土・日 11:00～17:00(最終入場16:30) 一般700円 / 学生500円

「建築家・山田守の住宅」展

4 / 12 [水] → 4 / 23 [日]
2017 * 4.17・18 閉邸

山田守自邸：港区南青山5-11-20(地下鉄表参道駅徒歩5分) 水～金 13:00～18:00(最終入場17:30) / 土・日 11:00～17:00(最終入場16:30) 一般700円 / 学生500円

山田守(1894-1966)は日本近代を代表する建築家のひとりです。

山田は、東京帝国大学建築学科を卒業する1920(大正9)年に同級生5人と「分離派建築会」を結成し、展覧会や作品集を通して、建築が芸術であることを訴えました。

戦前には、通信省技師として「東京中央電信局」(1925)や「東京通信病院」(1937)を、戦後には山田守建築事務所を率いて「厚生年金病院」(1953)、「長沢浄水場」(1957)などのモダニズムの作品を世に問い、高い評価を得ました。晩年には、「京都タワービル」(1964)や「日本武道館」(1964)、「東海大学湘南校舎キャンパスの校舎群」(1963-66)を設計しています。

いずれも合理性に配慮した建築ですが、軽快で、要所に曲面を使うというデザインがユニークで、機能性と美しさ、独創性と伸びやかさが渾然一体となっているのが山田建築の魅力です。大規模な建築をたくさん手がけた山田ですが、「鶴見邸」(1931)、「渡辺邸」(1937)、「山田自邸」(1959)、「松前邸」(1962)の4つの住宅を手がけています。それらは大きな建築の影に隠れて、あまり注目されてきませんでしたが、そこにも、鉄筋コンクリート造でありながら、山田らしい、軽快でしゃれたデザインと創意工夫が随所に見られます。

この展覧会では、自邸を中心に、設計図や写真、模型によって、敷地との関係を重視し、プランニングと構造を巧みに組み合わせ、曲面と薄い屋根スラブによる、軽快で伸びやかなデザインに仕立て上げるという、山田作品の魅力を紹介し、会場は山田自邸2階のギャラリーですから、展示スペースそのものも見所で、会期中にその魅力を説明するガイド付きツアーを予定しています。

「建築家・山田守の住宅」展 実行委員長
藤岡 洋保

ギャラリートーク ※英語対応あり

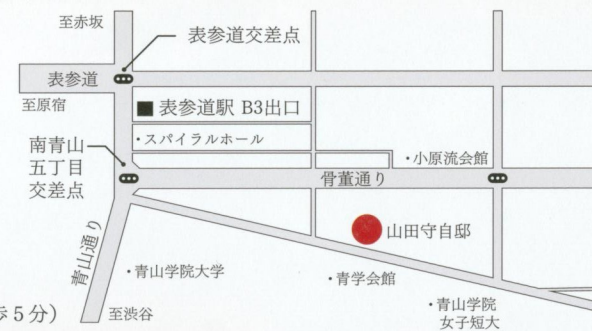
[開催日時] 2017年4月12日(水)～4月23日(日) 13:30～ / 15:00～ (平日は予約制)

[講師] 藤岡洋保(東京工業大学名誉教授)、大宮司勝弘(東京家政学院大学助教)ほか
平日のご参加(土日を除く)をご希望の方は

①氏名 ②職業 / 所属 ③希望日時 ④連絡先を記載の上、

Email: jyutakuisan@gmail.com または、Fax: 03-3722-0166 までお申し込みください。

Map



山田守自邸：
港区南青山 5-11-20
(地下鉄表参道駅徒歩5分)

主催：「建築家・山田守の住宅」展実行委員会

特別協力：山田五十一郎、東清仁、谷地富美子、山田新治郎

協力：一般社団法人住宅遺産トラスト

後援：一般社団法人日本建築家協会、
一般社団法人日本建築士会連合会、
一般社団法人日本建築学会、
DOCOMOMO Japan (50音順)

特別協賛：株式会社 竹中工務店

委員長：藤岡洋保(東京工業大学名誉教授)
委員：岩岡竜夫(東京理科大学教授)
大宮司勝弘(東京家政学院大学助教)
野沢正光(住宅遺産トラスト代表)
松隈章(住宅遺産トラスト監事)
木下壽子(住宅遺産トラスト理事)
キュレーター：藤岡洋保、岩岡竜夫、大宮司勝弘
会場デザイン：岩岡竜夫